



子どもの6分の1 6人に1人が貧困状態に陥っているといわれる現在の日本。この連載では、その6分の1の子どもたちの現状と、この地域で「子ども貧困」の解決に取り組む団体の活動をご紹介します。

## 誰もが共に生きられる、地域の学習支援

Smyle( Support my learningの略)は、特定非営利活動法人 ささしまサポートセンター(以下SSC)が実施している学習支援活動です。SSCは、野宿者をはじめとする生活困窮者に寄り添いながら支援活動を行い、誰もが地域で共に生きられる居場所をもてるような社会を目指し活動しているNPOです。生活困窮者の支援活動の一環として、貧困の連鎖を断ち切るために、2013年より名古屋市の生活保護世帯等の中学生の学習サポートモデル事業を受託運営しています。

Smyleは、主に大学生で構成された学習サポーターが中心になって、個別指導形態で行い、学校の宿題や授業で分からなかった問題などを教材にして2時間の学習をします。子どもの帰宅後には、約1時間の会議を行い、その日の子どもたちの様子や学習の進捗などをサポーター内で共有しています。子どもたちにとって、比較的年齢の近い大学生がサポーターとなることで、将来を見据える身近なロールモデルとなっています。

よりよい関係性を築くために

Smyleでは、子どもたちとの触れ合いを大切にしているため、学習だけでなく、年2回程度のイベントも行っています。このイベントは、サポーター同士、子ども同士、サポーターと子どもといった、お互いの距離を縮めるためのものであり、サポーターを中心に計画しています。

今年度は夏に、ペットボトルを半分に切ったものをつなげて、流しそうめんをしました。サポーターだけでなく、子どもたちも一緒に準備を行いました。子どもたちは自分たちで作上げたこともあり、とても楽しんでいる様子でした。

イベントを通して、よりよい関係性が生まれ、子どもたちの新たな一面を見つけることができる良い機会となっています。

どこにでもいる普通の子どもたち

Smyleに通う子どもたちと接していて感じることは、私たちサポーターに見せてくれる素顔はどこにでもいるごくごく普通の子どもたちであるということです。

子どもたちの多くは、ひとり親世帯であったり、親が病気で働けなかったり、外国にルーツをもつ家庭であったり、複雑な家庭状況に置かれています。また、

貧困といった圧倒的に大きなハンデを抱えていることは否定できず、それは学習面においても表れています。小学生の頃から不登校であったり、現在も学校を休みがちな子どももおり、各教科の単元ごとすっぱり抜け落ちていることもよく目にします。九九が完璧でない子どももいます。「勉強ができないのは努力が足りないからだ」という声を聞くことがありますが、そのようなことは決してありません。中学生にとっては比較的長い2時間、愚痴をこぼすことなく、こつこつ問題を解いていくその姿勢と集中力に、驚かされるほどです。

その一方で、休憩中には、楽しそうにカードゲームについて語ったり、好きな芸能人の話で盛り上がり、友達とプールに行くのが楽しみと話してくれたり、そのふとしたときに見せる素顔は、どこにでもいる普通の子どもたちとなんら変わらないあどけない顔です。

すべての子どもに高校へ行くチャンス

学習支援の目的のひとつは、彼らが高校に進学すること、志望する高校に行くことです。生活保護世帯の子どもは高校進学率は一般世帯の進学率に比べ、10%程度低い現状があります。

学習支援を通して、一人の女の子に出会いました。母親との関係が上手くいかない、勉強が好きでない、

教師と上手く折り合うことができず、学校にもほとんど行っていない、そんな彼女が夢中になり、一生懸命取り組んでいたことが、ダンスでした。進路のことを考えた時、彼女は「ダンスがやりたい」と言いました。サポーターの一人はダンス部が世界的に活躍している自分の母校を彼女に紹介したいと思いましたが、安易にすることができませんでした。なぜなら、私立高校だったからです。

公立高校の授業料の無償化が進む一方で、私立はさまざまな面でお金がかかります。たとえ入学することができたとしても、途中で学費が払えなくなり、やめざるを得ない子どもがたくさんいます。子どもの学びたいことを学ぶことができ、やりたいことができる、そういった学校の特色で志望校選びをすることができるような支援制度が必要です。やる気と努力さえあれば、行きたいと思う学校に行くチャンスも、子どもたちに与えることができたらと願うばかりです。

共に生きていける社会に向けて

Smyleに参加したばかりの頃は、口数も少なく、勉強が「わからない」ということさえなかなか言い出せない子どももいます。しかし、サポーターや他の子どもたちと共に時間を過ごしていく中で、彼らは笑顔を見せたり、家族や学校の愚痴をこぼしたり、ふとした瞬間に素の表情を見せてくれるようになります。子どもたちのそんな気を抜いた姿を見た時、Smyleが彼らにとっての居場所となりえているかもしれない、と私たちは密かに思うのです。

しかし一方で、学習支援事業には、開催する時間や日数、1回に入るサポーターの数が予算に縛られていること、受け入れ対象の線引きの難しさなど、多くの制約や課題があります。また、学習支援の充実だけでなく、さまざまな分野の制度や仕組みを

見直し、貧困問題や教育格差を根本的に解決していく必要があります。私たちは社会の一員として、子どもも大人もすべての人が安心して生きていける社会をつくっていきたくと思います。

(執筆:こながい、くらうち、やまもと、おがわ、くわばら、さとう)



### INFORMATION

特定非営利活動法人 ささしまサポートセンター  
1985年に路上生活者(ホームレス)や日雇労働者に医療支援を行うことを目的に設立された笹島診療所を起源とする団体です。  
名古屋市中村区大宮町1-27  
TEL: 052-462-9325 FAX: 052-462-9326  
E-mail: cl.4sima@fancy.ocn.ne.jp  
HP: <http://www.sasashima.info/>

学習支援物資をご提供ください!!  
不要となった辞書(国語辞典、英和・和英辞典)、  
中古文房具(ノート、鉛筆、シャープペン、消しゴム、  
蛍光ペン、チェックペンなど)